

家畜衛生広報



ながの

長野家畜保健衛生所
北信家畜畜産物衛生指導協会
〒380-0944 長野市安茂里米村1993
Tel 026-226-0923 Fax. 026-227-2665
E-mail:nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

大腸菌性乳房炎が増えていませんか？

大腸菌性乳房炎は、大腸菌群(大腸菌、クレブシエラ、プロテウスなど)による乳房炎で、高温多湿になる夏場の発生が最も多くなっています。また、分娩(飼料の急変や周産期疾病)や暑熱ストレスなどで抵抗力が低下している牛は、重篤になりやすいので注意が必要です。

○ 症状

- ・ 水様(透明に近い)の乳汁、多量のブツ
- ・ 発熱、食欲不振、乳房の腫脹・硬結、目の充血など
- ・ 抗生剤が大腸菌を殺菌
 - 毒素(エンドトキシン)発生
 - エンドトキシンショック(全身の血液循環の障害、起立不能など)
 - 牛は死亡・廃用となることも

抗生剤の使用は慎重に！

大腸菌性乳房炎を疑うときは、すぐに獣医師に連絡しましょう！

○ 対策

- ・ 頻回搾乳: 細菌・エンドトキシンを排出
- ・ 流水・湿布などで乳房を冷却: 炎症を抑える

○ 予防

- ・ 牛床の除糞・乾燥(カウトレーナーの位置も再確認)
- ・ 敷料の消毒: 敷料に消石灰を混ぜる(クレブシエラは特にオガクズに注意)
- ・ 搾乳衛生の徹底: プレディッピング、乳頭清拭、ライナースリップ防止など
- ・ 過搾乳の防止: 乳頭口皮膚の損傷を防ぐ
- ・ 暑熱対策: 暑熱ストレスを減らす
(送風機、遮光ネット、屋根の石灰乳塗布・散水、細霧、飼料の少量多回給与)
- ・ 大腸菌ワクチンを使用: 症状を緩和する、死亡・廃用頭数を減らす



消毒は伝染病予防の第一歩